

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 明保小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	77人	算数	77人	理科	77人
第5学年	国語	82人	算数	82人	理科	82人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

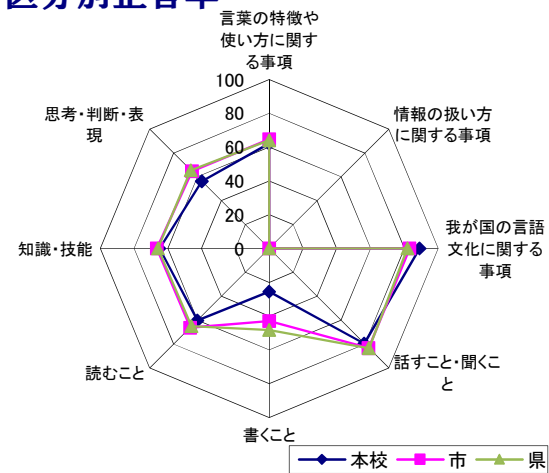
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立明保小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	62.2	64.7	64.1
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化にに関する事項	89.0	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	79.6	83.3	83.4
	書くこと	25.6	42.8	48.2
	読むこと	60.1	66.1	65.1
観点	知識・技能	64.9	66.5	65.9
	思考・判断・表現	56.3	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

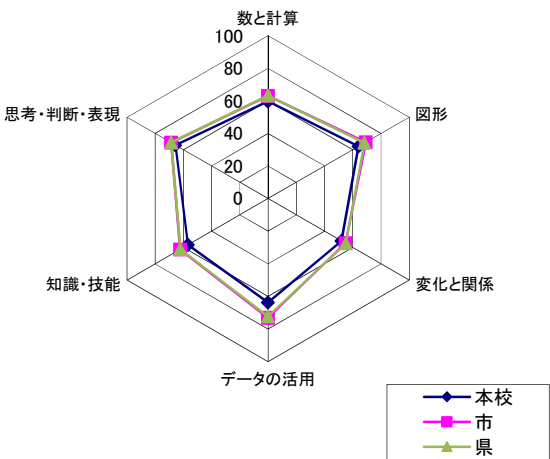
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は市の平均より低い。 ○第4学年までに配当されている漢字を正しく読むことはできている。 ●第4学年までに配当されている漢字を正しく書くことに課題が見られる。	・漢字の読みについては、引き続き音読や読書を推進し、漢字を読む機会を増やす。 ・漢字の書きについては、定期的に漢字テストを行い、繰り返し練習することを増やし定着を図りたい。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は市の平均より高い。 ○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることはよくできている。	・言葉の学習では、ことわざや慣用語、四字熟語など授業中に意図的に取り上げたり、自主学習につなげたりすることで、多くの言葉に触れる機会を増やしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均より低い。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉えることがよくできている。 ●司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に、考えをまとめることに課題が見られる。	・日常生活の中で、聞いたことを基に自分の考えを述べる機会を増やしていく。さらに、自分が考えたことをメモにまとめたり、人に伝えたりする活動を取り入れる。
書くこと	平均正答率は市の平均より低い。 ●指定された長さで文章を書くことや段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことに課題が見られる。	・タブレットだけではなく、紙に書く活動を年間指導計画に位置付けることで確実に実施し、書く機会を増やす。 ・文字数や段落などの条件を設定したり、時間を制限したりする中で書く経験を積み重ねる。
読むこと	平均正答率は市の平均より低い。 ○登場人物の気持ちを具体的に想像することは、ほぼできている。 ●情報と情報の関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約することに課題が見られる。	・情報と情報の関係を図や表にまとめる活動を取り入れ、関係性を理解できるようにする。 ・文章を要約するときには、大切な言葉を見付けたり、筆者が言いたいことの中心を読み取ったりする手順を丁寧に指導する。

宇都宮市立明保小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	59.7	63.0	63.3
	図形	64.0	69.2	68.3
	変化と関係	52.0	54.8	55.0
	データの活用	63.7	73.1	72.3
観点	知識・技能	56.8	62.3	62.1
	思考・判断・表現	65.7	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

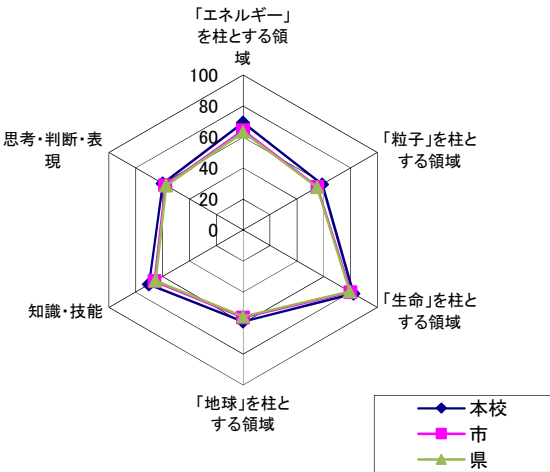
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均と比べて低い。 ○小数第二位×整数の計算がよくできている。 ●小数のしくみを理解し、もとにする小数のいくつ分かで大きさを比べることに課題が見られる。	・今後も朝の学習や家庭学習でAIドリルなどを活用して、基礎的な計算問題に取り組んでいく。 ・数の仕組みについて、位に注目しながら考えさせるようにしたり、小数の大きさを多面的に捉えたりすることができるよう学習を行っていく。
図形	平均正答率は、市の平均と比べて低い。 ○立体の構成要素から、立体を見分けることがよくできている。 ●三角定規の角の大きさを理解し、組み合わせてできた角の大きさを求めることに課題が見られる。	・図形ごとの特徴を捉える際に、辺や角の大きさなどの構成要素に注目するような指導の工夫をする。 ・実感を伴った理解が得られるように、具体物を用いながら、体験的な学びとなる授業を展開していく。
変化と関係	平均正答率は、市の平均と比べて低い。 ○表を縦に見ることで、伴って変わる2つの数量の関係を読み取ることがよくできている。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表すことに課題が見られる。	・2つの数量の変化における規則性を見付けていく学習で、多面的な視点がもてるように、数量の変化で気が付いたことを話し合う活動を取り入れていく。 ・数量の変化を式に表す学習機会を多く設定し、式で表現する力を高めるような指導の工夫をする。
データの活用	平均正答率は、市の平均と比べて低い。 ○二次元の表の意味をよく理解することができている。 ●折れ線グラフの特徴を理解し、傾きから変わり方を読み取ることに課題が見られる。	・算数だけではなく、社会科などの資料活用の場面で、グラフや表のデータ活用を教科横断的に行う。 ・グラフごとの特徴を整理して考えさせ、折れ線グラフは変わり方が捉えやすいという特徴から、折れ線グラフの見方について理解できるような指導の工夫をする。

宇都宮市立明保小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	69.2	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	59.0	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	82.1	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	59.0	56.4	55.8
観点	知識・技能	70.2	66.0	65.3
	思考・判断・表現	59.9	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より高い。 ○回路における電池のつなぎ方やつなぎ方による電流の大きさ・流れる向き、検流計の仕組みなど、毎時間回路をつなぎ、時間をしっかり確保して一人一人が実験した効果だと思われる。 ●図の示された回路から電流が流れない原因を見つけ出し改善することがやや低く、思考面での課題が見られる。	・各自の教材で実験を行っているので、毎時間回路をつなぐ際に、電流の流れを確認させたり、自分が作った回路を回路図にまとめたりして、知識・技能の定着を図り、結果を自分の言葉でまとめることを継続して指導していく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より高い。 ○水や空気の性質のついて空気は押し縮められる、温まるとどのように動くなどの知識は身に付いている。 ●空気を圧したときの性質と関連付けて空気でつぼの仕組みを考える、温められた空気の動きと関連付けてエアコンの吹き出し口の向きを考える、ガラス瓶の上の1円玉が動く理由を温められた空気の性質と関連付けて考え表現するなど、思考・表現の面	・何のための実験が課題を明確にして取り組ませる。 ・結果から考察する時は、重要な言葉をキーワードとして取り上げまとめる指導をしていく。 ・まとめ、振り返りを書かせることで、文章で書く力を高めていく。 ・単元の終わりに、この単元で学んだことが生活に生かされていることを考えさせる。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より高い。 ○1年間の生き物の様子やヒトの体についての知識は身に付いている。 ●骨のはたらきについて「すべて選ぶ」という問題は、誤答が多く課題が見られる。	・1年間を通して学校内の動植物を観察したり、季節感がある話題を授業の始めに取り上げたりして、季節による変化を感じ取らせていく。 ・自分の体に関心をもたせ、他の動物と比較しながら共通点や相違点を見出すようにする。実際に触れたり、写真やビデオ映像を見たりすることで筋肉と骨のはたらきをしっかりと押さえる。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より高い。 ○天気による1日の気温の変化については理解できている。 ●実験結果から土のつぶの大きさと水のしみこみやすさを関連付けたり、結露が発生する理由と水滴のできる場所を関連付けたりして考えることに課題が見られる。 ●星や月の動きについては、市の正答率を下回り課題である	・まとめ、振り返りを書かせることで、文章で書く力を高めていく。 ・○○と△△を関連付けてまとめが書けるよう指導する。 ・水の変化については、実生活と結び付けて考えさせる。 ・星や月については、星座早見や映像を使って授業で学び、実際に家に帰って観察するよう勧めているが、今後も家庭と連携し観察しながら動きを押さえていきたい。また、校外学習などでプラネタリウムを見るなどの機会をつきたい。

宇都宮市立明保小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」「グループなどでの話し合いに進んで参加している」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」などの設問で肯定的な回答率が県の平均より上回っている。学習の中に話し合う活動を積極的に取り入れ、学びの深まりを実感したり達成感を感じたりする経験をする中で、児童の意欲の高まりにつながっていると考えられる。引き続き、友達と話し合い協働する活動を取り入れ、児童が学ぶ喜びを感じられるようにしていく。

○「家で、学校の授業の予習をしている」「勉強していて不思議だな、なぜだろうと感ずることがある」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」などの設問で肯定的な回答率が県の平均より上回っている。児童は、「マイプラン」として、自分で課題を設定し計画を立てながら家庭学習に取り組む活動を通して、自分で学習する力を身に付け、自分で決めたことに意欲的に取り組むことができるようになってきている。引き続き、自己選択や課題解決を通して学ぶ機会を設定していく。

●「問題をとく時間が十分だった」と回答した児童は、国語と算数で県の平均より下回っている。その要因として、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」と回答した児童が県の平均を上回っており、書くことを難しく感じている児童が多いことが挙げられる。今後は様々な活動や教科で書く力を養う機会を設定したり、日常生活の中でも文章を書く経験を積んだりできるよう工夫していく。

●「平日の睡眠時間」において長時間睡眠をとっている児童が県の平均に比べてやや低い。その要因として、「平日にテレビやDVD、動画を見る時間が4時間以上」「平日にテレビゲームをする時間が2時間以上」「平日の通話やメール、インターネットの利用時間が4時間以上」と回答した児童はどれも県の平均よりも高いことが挙げられる。テレビでYouTubeなどの動画サイトが視聴でき、個人のスマートフォンやタブレットを持つ児童も増えてきているなど、身近に熱中しやすい環境があることも一つの要因だと考えられる。デジタル機器を各家庭で決めることを呼び掛けたり、誘惑に負けずに自分で時間の管理をしたりするなど、規則正しい生活を送れるように指導していく。

宇都宮市立明保小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の定着	宮っ子学力ステップアップシートやAI型学習ドリルの活用を年間通して実施している。 家庭学習強化週間の設定や家庭学習啓発資料の配付を通して、家庭との連携を図り、主体的に家庭学習に取り組めるようにしている。 少人数指導や習熟度別学習など、学習形態を工夫することで、個に応じた指導を行っている。	4・5年生ともに、前学年に配当されている漢字の読みはよくできているが、書くことや計算など、基礎的な知識や技能に関わる問題における平均正答率が、県や市の平均よりも低いものがある。「学校の授業以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」には、学年目標に対して、4年生では「30分以上」の回答が市や県の平均を下回り、5年生でも、「1時間以上」と回答する割合が大きく下回っている。
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の工夫・改善	授業の導入では課題を明確にし、展開では、個別に考える時間を確保し、ペアやグループで課題解決を行い、終末では学習のまとめや振り返りを行うことで、学習内容の定着を図っている。	「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」に肯定的に回答した児童の割合は、4、5年生ともに、県や市の平均を上回っている。また、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」に肯定的に回答した児童の割合は、4、5年生とも市や県の平均より上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
質問紙調査において、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」という設問に肯定的に回答した児童の割合が、4年生は59.5%、5年生は61.7%いる。	条件に応じて自分の考えを書く活動の充実	様々な機会を捉えて、自分の考えを端的に記述する活動や、複数の資料から目的に合った情報を抜き出してまとめたり、メモを基に文章を書いたりする活動を取り入れていく。また、自分の考えを書く際に、字数や使用しなければならない語句の条件を段階的に増やすなどの提示の仕方を工夫し、条件に合わせ、自分の考えをまとめて記述する力を養っていくようにする。さらに、始めから完璧な解答を求めず、児童に寄り添いながら思考の過程で励ますことで自信をもたせたり、友達のよい文章を提示して参考にさせたりし、諦めずに挑戦する意欲を高めるようにする。
質問紙調査において、「学校の授業以外に普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強していますか」という設問に対して、4、5年生ともに学年目標に対して、4年生では「30分以上」の回答が市や県の平均を下回り、5年生でも、「1時間以上」と回答する割合が大きく下回っている。	家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	家庭学習に継続的に取り組むことができるよう、「家庭学習の進め方」等を活用しながら計画の立て方や内容についての指導を定期的に行う。その際に、「家庭学習カード」や「マイプラン」に取組内容や時間を記録させると共に、学習環境が整うように家庭と連携を図りながら、保護者へ働きかける。 関心意欲を高め、粘り強く学習に取り組めるように授業を工夫しながら、個別最適な方法で、家庭学習の学びにもつなげられるようにする。